

令和6年第5回 12月定例会

令和6年12月4日（水曜日）

＊

議事日程第18号

（令和6年12月4日 午前10時開議）

第1 一般質問

<中略>

○副議長（村上隆一） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続行いたします。 17番、石森議員。

◆17番（石森啓司） （登壇）いよいよ最後のグループの潮風おのみち、1番は石森が行います。

<中略>

それでは、一括質問にて一般質問を行います。

質問に移ります。

1番、学校再編計画は何年先までを考えておられますか。

2番、小学生児童の減少率は何％で計算されていますか。

3番、10年後の小学生児童数は何人と推測されておりますか。

4番、統合された跡地活用について、また耐震化されていない校舎の取扱いについて、今後どのように考えておられますか。

また、校舎を活用したいと言ったら、耐震化工事の可能性はあるんですか。

以上、よろしくお願いいたします。

○副議長（村上隆一） 石森議員、最後の質問なんですけども、通告に書いてないので、そこはなしということで、1、2、3、4番、全部言ったのをお願いします。

理事者より答弁を求めます。

宮本教育長。

◎教育長（宮本佳宏） （登壇）潮風おのみちの石森議員からの御質問にお答えさせていただきます。

新たな学校再編計画についてでございます。

教育委員会では、子供たちの安全・安心はもとより、教育環境の充実を目指し、適正な学校規模の確保を基本として小・中学校の再編を進めてまいりました。

現在、市内の小・中学生は減少傾向にあり、学校規模も小規模化してきており、再編計画を策定した平成23年当時とは学校の状況が変化しております。そのため、新たな学校再編計画の策定が必要であると認識しており、教育の質の向上や教育環境の充実を目指し、小中一貫教育校への移行を視野に入れながら、適正な学校規模の見直しや、学校施設の老朽化への対応、通学対策など、様々な観点から検討する必要があると考えております。策定に当たっては、幅広く保護者や地域の方などの意見を聴取し、計画を策定できるよう、令和7年度に尾道市立小・中学校の在り方検討委員会を設置したいと考えております。

次に、旧久保小学校、旧長江小学校、旧土堂小学校の跡地の活用についてでございます。

校舎については、耐震性がないことに加え、建築後約60年から約90年を経過し、老朽化が進んでいることから、教育委員会といたしましては、耐震化して活用することは困難であると考えております。また、敷地については、進入路が狭隘であったり、後背地に土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域が存在するなど、課題もございます。

このような中で、教育委員会では活用方針について協議を進めておりますが、現時点においては白紙であり、お示しすることはできません。引き続き、市長部局と連携するとともに、地域の御理解をいただきながら検討を進めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

○副議長（村上隆一） 17番、石森議員。

◆17番（石森啓司） 教育委員会としては、再編計画は立てられておりますけれども、何年先まで見た計画をつくっておられるのかということと、今後、小学校の児童・生徒数は減っていくのは分かっておりますが、どれぐらいのスピードで減っていくかということも計算されておりますか。それについてお答えをお願いします。

○副議長（村上隆一） 小柳学校教育部長。

◎学校教育部長（小柳哲雄） まず一つ目の、平成23年12月に策定しました学校再編計画のスケジュールでありますけれども、これは長期計画の平成39年からというものもありますので、令和9年以降のことも見据えて計画を立てております。短期が5年、中期が10年、長期も約10年というのを見込んで、25年ぐらいのスパンで当初計画を立てておりましたが、現在、子供たちの減少でありますとかそれぞれ校舎の老朽化、様々な環境が変化していく中で、現状の再編計画についてはやはり見直しをしていかなければいけないということで、これまで議会でも答弁をさせていただいております。

現状の児童・生徒数の推移でございますが、私たちは住民基本台帳による出生数に基づいて、現在、実数値で推計をしております。今年の5月1日現在では、令和12年度入学予定者数、ここの514人というところまでが把握をしている数字でございます。

○副議長（村上隆一） 17番、石森議員。

◆17番（石森啓司） 教育委員会としての方針は大体あらかた分かっておりますけれども、あまり変わらないということですね。

それと、先ほど教育長のほうから言われました土堂小学校、長江小学校、久保小学校の教室については、これは教室を使ってもらうわけにはいかないという考えでよろしいわけですね。ということは、これはもうそのまま触らないで、解体もしないで置いておくと。地域としては、グラウンドも、今言われた限りでは、道が狭いから難しいですよということで、はっきりした今後の学校全体としての使い方を何らかの形で示していただけないと、地域コミュニティとしては、当初言われたように、どういうふうにしてここを活用してくれるのかということなので、それに向かっていろいろ検討しているわけですから、急に使えませんかと言われても戸惑いは大きいということなので、そこらの方針をはっきり示していただきたいと思いますので、それを早急によりしくお願いしたいと思います。（拍手）

○副議長（村上隆一） 中濱教育総務部長。

◎教育総務部長（中濱昌二） 旧久保小学校、旧長江小学校、旧土堂小学校の跡地の活用ということでございますけれども、教育長答弁でもございましたように、建物については老朽化が進んでいるということで、耐震化をして活用していくことは難しいのではないかとこのように考えていること、また敷地につきましても、進入路がやはり狭いということもありますし、後背地に土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域でございますとか土砂災害警戒区域、こういったことがありますので、やはりそういったリスクがあるということも課題として承知をしているところでございます。

ただ、旧市街地におきまして、こうした広い土地の活用というのは重要であるというふうに考えております。活用方針については白紙でございますけれども、引き続き市長部局と連携することによって検討してまいりたいというふうに考えております。